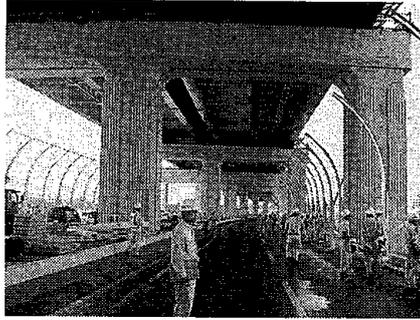


【JCCA 近畿支部】研修会の記事が掲載されました

建設コン協 近畿支部 品質・技術力向上へ研修会



讚良地区で舗装工事と遮音壁工事を視察する参加者

現場での設計不具合 事例などで意見交換

建設コンサルタツ協 施工会社も加わって現場会（建コン協）近畿支部（松本正毅支部長）は16日、本年度1回目の「設計品質・現場技術力向上のための研修会」を第一京阪道路の現場で実施した。昨年3回にわたり実施した下部・上部工事などでの研修を引き続き、舗装工事・遮音壁工事、改良工事を対象に行った。近畿地方整備局の協力で、同局の職員も参加。

あいさつする本下 技術部会長



設計品質・現場技術力向上のための研修会は、建設コンサルタツの設計業務の品質向上に向けた各種施策の展開のために設置した「品質向上委員会」（委員長・小笹展啓、副委員長・小笹展啓）が打ち出した「品質向上のための取り組み」（中間報告）を受けて実施したもの。設計技術者の現場力を高めるために、30人程度のメンバーによる現場見学会を近畿整備局職員と合同で数回開催し、報告書を提出させるなどして水平展開を図っていく。



整備局職員、施工会社も参加し意見交換会

この日の研修会には、建コン協近畿支部委員会から33人の技術者と近畿整備局の技術職員約50人が参加。まず、大阪北道路加子作地区舗装工事（施工IIガイアート・K）の現場を訪れ、改良工事や舗装工事の施工状況

を丹念に見て回った。引き続き、大阪北道路讚良地区舗装工事（施工II鹿島道路）や讚良地区の遮音壁工事（施工II上り・富士技研、下り・南海辰村建設）も見学。午後から浪速国道事務所で行った意見交換には、見学に訪れた現場に浅川組を加えたら現場から監理技術者が加わった。本下建設コン協近畿支部技術部会長が「これまでの研修会で、発注者と設計者、施工者が集まって意見交換してきたおかげで様々な問題に対して技術の共有ができた。このような場で問題点を指摘したことが我々の成果や品質を高めることになり、高品質な社会資本整備につながる」とあいさつしたあと、浪速国道事務所古野副所長が「整備局としても職員が現場を見て意見を交わすことで技術力を高める一つのきっかけになる。有意義な意見交換を期待する」と述べ、施工会社が各現場における工事説明や設計不具合事例の説明を行って意見交換した。とくに議論されたのは、排水構造物のおさまりの問題。民地境界あたりで認め不足などが指摘されたほか、占用物件での50坪ピッチでの調査に限界があるなどの問題も議論された。また、コンサル業務におけるワンデーレスポンスなどの必要性も指摘され、浪速国道事務所側は前向きに検討するとした。